

京都の土と石

—伝統工芸を支える資源—

日時 | 2015年3月8日(日)

10:50→17:10(10:30開場)

会場 | キャンパスプラザ京都
第2講義室

入場無料・申込不要

主催：文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、
立命館大学アート・リサーチセンター
共催：立命館大学文学部京都学専攻



※立命館大学衣笠キャンパスの土を用いて焼いた茶わん

基調講演 ※日本語講演

ルイーズ・コート

(Curator of Ceramics, Freer and Sackler Galleries, Smithsonian Institution)

「京焼の土と登り窯－世界からみた京焼と登り窯－(仮題)」

講演

岡 佳子 (大手前大学総合文化学部教授)

「近世京焼の御用達と陶土」

前崎 信也 (立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員)

「五条坂に残る登り窯の今－産業廃棄物と文化遺産のはざまで」

山田 拓広 (花農造園株式会社代表取締役社長)

「京都の庭園から見た自然資源」

研究発表

清水 志郎 (陶芸家)

今井 寛治 (元・京都市産業技術研究所製品化支援技術グループ研究部長)

木立 雅朗 (立命館大学文学部教授)

ミニ展示企画

【予定展示作品】 ●京都の土を使用した作品

末川記念会館 磁美室

会場 | 立命館大学衣笠キャンパス

13:00→17:00(12:30開場)

日時 | 2015年2月22日(日)

講師：立命館大学アート・リサーチセンター事務局

●京都の土と石に関する総合的な研究会

●京都の土と石に関する研究会

●京都

工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズ

本シンポジウムは、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)[以下、京都工芸P]の5年間の研究成果の発信の一環として開催いたします。

2014年7月12日・13日に、成果の一部を展覧会「分業から協業へー大学が、若冲と京の伝統工芸を未来に繋げるー」展として公開し、両日あわせて1700名以上ご来場いただきました。また、2014年10月13日に、シンポジウム第1弾として「つたえる力ー京都の伝統工芸ー」を実施いたしました。そしてこのたび、シンポジウム第2弾2015年2月22日(日)「つたえる力2 工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズ」、第3弾として3月8日(日)に「つたえる力3 京都の土と石ー伝統工芸を支える資源ー」を実施いたします。

シンポジウム・シリーズ「つたえる力」

13:00～	開会
13:05～	基調講演 杉子女王(京都市立芸術大学 芸術資源研究センター特別招聘研究員) 「工芸と伝統—思いを『つなぐ』意味ー」
13:35～	講演 ※英語講演・日本語通訳あり シャロン・サダコ・タケダ (Senior Curator and Department Head, Costume and Textiles, Los Angeles County Museum of Art [LACMA]) “East/West: Significant Moments in the History of the Study of Japanese Textiles in the United States”
14:40～	活動報告「京都工芸プログラムを通じてみえてきたもの -工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズー」 山本 真紗子(日本学術振興会特別研究員) 「友禅を調べるー資料の掘り起しとその発信」 細井 浩一(立命館大学映像学部教授) 「伝統工芸をみせる—セカンドライフとバーチャルハイブリッドタグ」 鈴木 桂子(立命館大学衣笠総合研究機構教授) 「きもの文化とその研究の海外発信」 木立 雅朗(立命館大学文学部教授) 「友禅図案を活かすー和鏡・唐紙・友禅小物」
15:30～	講演 高橋 晴子(大阪樟蔭女子大学客員研究員、国立民族学博物館外研員) 「〈服装・身装文化デジタルアーカイブ〉構築の観点から」
16:10～	パネル・ディスカッション 「つたえる力ー京都の伝統工芸ー」
17:00	閉会

京都にはさまざまな工芸と、それを支える、あるいはとりまく文化がある。いわゆる伝統的なモノづくりに注目があつまり、関係者の努力や工夫はあるものの、さまざまな社会情勢の変化のなかでこれまでの工芸をささえていた素材、技術は揺らいでいる。京都工芸Pでは、こうした現状を踏まえ、さまざまなアプローチから研究を試みている。

京都工芸Pでは鏡、唐紙、京焼など京都の伝統工芸に関する調査をおこなってきた。2010年度から立命館大学アート・リサーチセンターに近代の型友禅図案が収藏されたことをきっかけに、京友禅についての調査を開始。文献調査や聞き取り調査など、従来の研究手法のほか、データベースの活用や仮想空間での再現などのデジタル・ヒューマニティーズ的手法も併用しながら研究をおこなっている。

本シンポジウムでは、海外や外部研究者らの視点を交えて本研究拠点の取り組みをご紹介するほか、今後の研究の方向性を探る。

*本シンポジウムは台風のため中止となった2014年10月13日「つたえる力ー京都の伝統工芸ー」の午後のプログラムをもとに、再構成したものです。

つたえる力2

つたえる力3

京都の土と石

伝統工芸を支える資源

京都の伝統工芸を支えてきた道具や資源に焦点をあて、それらが歴史的にどのように活用されてきたのか、それが現代ではどのように取り扱われているのかを明らかにし、未来にもむけた伝統工芸のあり方を模索する。

京焼にとって重要な道具であった登り窯は、都市部では使用が禁止されて久しい。土や石も採取が困難な状況である。京都から脱出したり、電気窯やガス窯を使用すること、京都以外の産地から土を移入することは、もはや普通のことである。登り窯の記憶は伝説化し、共同幻想が生まれているように見える。また、陶芸家ですら、「京都には土がない」と信じて疑わない方が存在する。京都の資源を足元から照らしなおし、今一度、「京都らしさ」とは何か、私たちは何を伝えるべきなのか、ということを、近年の研究状況や国際的な視点から問い合わせたい。

10:50～	開会
11:00～	講演 岡 佳子(大手前大学総合文化学部教授) 「近世京焼の御用達と陶土」
	前崎 信也(立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員) 「五条坂に残る登り窯の今ー産業廃棄物と文化遺産のはざまで」
13:00～	基調講演 ※日本語講演 ルイーズ・コート(国立スミソニアン協会フリーア美術館) 「京焼の土と登り窯ー世界からみた京焼と登り窯ー(仮題)」
14:00～	研究発表 清水 志郎(陶芸家)【司会・木立雅朗】 「陶芸家からみた京都の土ー講演と展示解説ー」
14:40～	研究発表 今井 寛治(元・京都市産業技術研究所製品化支援技術グループ研究部長) 「聚楽土と現在の京都の土ー京焼・土壁・竈ー(仮題)」
15:05～	講演 山田 拓広(花農造園株式会社代表取締役社長) 「京都の庭園から見た自然資源」
15:30～	研究発表 木立 雅朗(立命館大学文学部教授) 「京都の土と窯」
16:05～	シンポジウム「京の土と石ー伝統工芸を支える資源をめぐってー」
17:10	閉会

[日時] 2015年2月22日(日)
13:00→17:00(12:30開場)

[会場] 立命館大学 衣笠キャンパス
末川記念会館 講義室

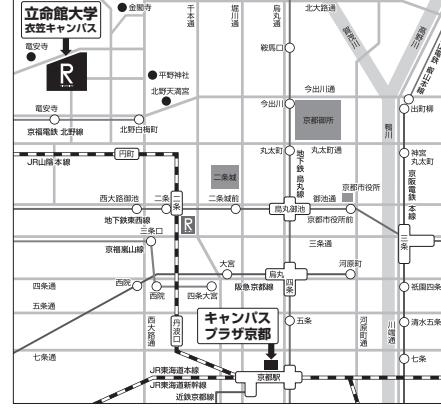
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

<http://www.ritsumei.jp/>

主催: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、
立命館大学アート・リサーチセンター

共催: 立命館大学文学部京都学専攻

協力: ZONE きものデザイン研究所 <http://zone-kimono.com/>



《両日》入場無料・申込不要

問い合わせ先/ 立命館大学 アート・リサーチセンター事務局 <http://www.arc.ritsumei.ac.jp/>

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL 075-466-3411(平日 9:00 ~ 17:30) FAX 075-466-3415

[日時] 2015年3月8日(日)
10:50→17:10(10:30開場)

[会場] キャンパスプラザ京都
第2講義室

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塙小路下る東塙小路町 939

<http://www.consortium.or.jp/>

主催: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、
立命館大学アート・リサーチセンター

共催: 立命館大学文学部京都学専攻

ART RESEARCH CENTER

R